

令和7年度
北秋田市行政評価委員会
評価結果報告書

令和8年2月
北秋田市行政評価委員会

目 次

| | |
|--|----|
| 1 行政評価委員会の概要 | 3 |
| （1）設置目的 | 3 |
| （2）委員会の役割 | 3 |
| （3）委員会の構成 | 4 |
| （4）評価の進め方 | 4 |
| （5）評価対象事業 | 5 |
| （6）委員会の開催経過 | 6 |
| 2 評価結果の総括 | 7 |
| （1）目的妥当性 | 7 |
| （2）有効性評価 | 7 |
| （3）効率性評価 | 7 |
| （4）公平性評価 | 7 |
| 3 事業別の評価結果 | 8 |
| （1）消費者行政推進事業 | 8 |
| （2）学校サポート員配置事業 | 9 |
| （3）学校給食センター管理事業 | 10 |
| （4）合川・米内沢駅管理事業 | 11 |
| （5）心の健康づくり事業 | 12 |
| （6）北秋田市事業承継支援事業 | 13 |
| （7）ハッピーアニバーサリー事業 | 14 |
| （8）マイタウンバス運行事業 | 15 |
| 4 市民による評価の課題及び改善に向けた提言 | 16 |
| 資料1 事務事業ワークシート | 18 |
| 資料2 令和6年度北秋田市行政評価委員会からの意見や提言に対する回答 | 34 |

1 行政評価委員会の概要

(1) 設置目的

北秋田市行政評価委員会（以下「委員会」という。）は、市が行った内部評価の客観性と透明性を高めるとともに、市民目線による外部の評価結果を今後の行政運営に活かすことを目的として設置しております。

(2) 委員会の役割

委員会では市が行った事業について、各委員がそれぞれの立場や視点で議論しながら評価を行い、問題等がある場合は改善案についても提言します。

評価にあたっては、次の4つの視点から評価しますが、いわゆる「事業仕分け」のように、事業の廃止や予算縮減など財源の捻出を主な目的とした手法ではなく「受益者」「納税者（負担者）」「利害関係者」「住民」などまちづくりの担い手がいることに留意しながら、行政、市民、各団体などそれぞれのどのような役割を担うべきかなど、建設的な意見や提言を取りまとめることを目標に取り組んでおります。

| 評価の視点 | 評価のポイント |
|-------|---|
| 目的妥当性 | <ul style="list-style-type: none">・ 目的は、総合計画の政策体系に結びついているか？・ 成果（対象と意図）と上位成果（結果）の絞り込み、拡充は必要か？・ 行政や市が関与すべき目的か？公共性はあるのか？ |
| 有効性 | <ul style="list-style-type: none">・ 成果の向上余地があるか？・ 同じ目的を持つ他の事務事業はないか？・ 統廃合や事業移管をすれば成果が向上するのではないかと？ |
| 効率性 | <ul style="list-style-type: none">・ 成果を低下させずにコストを削減できるか？・ どこにコスト圧迫、増大する要因があるか？・ 業務改善すれば人員や時間を削減できるのではないかと？ |
| 公平性 | <ul style="list-style-type: none">・ 一部の受益者に偏っていないか？・ 一部の受益者に機会が限定されていないか？ |



(3) 委員会の構成

委員会は、学識経験者、地域自治組織から推薦された方、公募市民からなる 10 名以内の委員で構成しています。

委員の任期は、令和 6 年 5 月 22 日から令和 8 年 3 月 31 日までとなっています。

| | 役職 | 氏名 | 部会 |
|----|------|--------|--------|
| 1 | 委員長 | 伊藤 武 | 第 1 部会 |
| 2 | 委員 | 春日 俊克 | 第 2 部会 |
| 3 | 委員 | 金森 勝三 | 第 1 部会 |
| 4 | 委員 | 小林 さや | 第 2 部会 |
| 5 | 委員 | 佐京 奈緒美 | 第 2 部会 |
| 6 | 委員 | 佐藤 頼秋 | 第 1 部会 |
| 7 | 委員 | 杉渕 麻美 | 第 1 部会 |
| 8 | 副委員長 | 長谷川 拓郎 | 第 2 部会 |
| 9 | 委員 | 檜森 正太 | 第 2 部会 |
| 10 | 委員 | 若松 洋美 | 第 1 部会 |

(五十音順)

(4) 評価の進め方

各事業の評価の進め方は、委員会を 2 つの部会に分け、部会ごとに担当課からヒアリングを行ったのちに部会としての評価や意見をまとめます。部会終了後に全体会で結果発表と意見交換を行って評価結果が取りまとめられます。

【 部会 】

① 担当課ヒアリング及び質疑応答 (60 分)

- ・担当部長、課長等により、事務事業評価シートをもとに事業の概要や実績、内部評価結果などを説明する。
- ・不明な点、疑問点を委員から質問し、担当課が回答する。

② 評価結果の取りまとめ (30 分)

- ・目的妥当性や有効性など 4 つの評価視点からそれぞれの意見を出し合う。
- ・評価結果の他、改善案などについても、意見を取りまとめる。



【全体会】

③ 評価結果発表・意見交換 (30分)

- ・部会毎に評価結果を発表する。
- ・疑問点の有無、その他の意見や改善案などがないか確認する。

④ 評価結果取りまとめ



(5) 評価対象事業

評価対象とする事務事業については、平成 24 年度から令和 7 年度までに担当課等による内部評価を終えた 146 事務事業のうち、委員から選んでいただいた事業の中から以下の 8 つの事務事業を今年度の評価対象として選定しました。(以前に外部評価を実施した事務事業も対象)

| 事務事業名 | 分野 (施策名) | 所管課名 |
|---------------|-----------------------|------------|
| 消費者行政推進事業 | 消費者保護の推進 | 生活環境課 |
| 学校サポート員配置事業 | 学校教育の充実 | 教育委員会学校教育課 |
| 学校給食センター管理事業 | 学校教育の充実 | 教育委員会教育総務課 |
| 合川・米内沢駅管理事業 | 公共交通の維持・確保 | 内陸線再生支援室 |
| 心の健康づくり事業 | 健康づくりの推進 | 医療健康課 |
| 北秋田市事業承継支援事業 | 商業の振興 | 産業政策課 |
| ハッピーアニバーサリー事業 | 安心して結婚・出産・子育てできる環境の充実 | こども課 |
| マイタウンバス運行事業 | 公共交通の維持・確保 | 総合政策課 |

(6) 委員会の開催経過

| | 日時 | 委員会の概要 |
|-----|-----------------|--|
| 第1回 | 5月23日(金) | <事務・事業ヒアリング> 【第1部会】消費者行政推進事業 【第2部会】学校サポート員配置事業 |
| 第2回 | 7月18日(金) | <事務・事業ヒアリング> 【第1部会】学校給食センター管理事業 【第2部会】合川・米内沢駅管理事業 |
| 第3回 | 8月29日(金) | <事務・事業ヒアリング> 【第1部会】心の健康づくり事業 【第2部会】北秋田市事業承継支援事業 |
| 第4回 | 10月17日(金) | <事務・事業ヒアリング> 【第1部会】ハッピーアニバーサリー事業 【第2部会】マイタウンバス運行事業 |
| 第5回 | 令和8年 1月9日(金) | <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果取りまとめ ・評価結果報告書作成 |
| 報告 | 2月3日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・市長へ評価結果報告書の提出 |



2 評価結果の総括

【評価項目別の評価結果一覧】 令和7年度評価対象 全8事業

| 評価の視点 | 担当課(内部評価) | | 行政評価委員会(外部評価) | |
|-------|-----------|---------|---------------|---------|
| | 適切 | 見直し余地あり | 適切 | 見直し余地あり |
| 目的妥当性 | 8事業 | 0事業 | 8事業 | 0事業 |
| 有効性 | 6事業 | 2事業 | 5事業 | 3事業 |
| 効率性 | 7事業 | 1事業 | 7事業 | 1事業 |
| 公平性 | 8事業 | 0事業 | 8事業 | 0事業 |

(1) 目的妥当性 (行政が関与すべきか? 公共性はあるか?)

目的妥当性に関しては、すべての事業で「適切」という評価になった。

(2) 有効性評価 (成果向上の余地は? 他の事業との連携は?)

・合川・米内沢駅管理事業において、「現在の委託先がなくなった場合、新たな委託先が見つかるのか、現実的には難しいかもしれないが、複合的な機能をもった駅にすることで連携の可能性があるのではないか。」という意見が出された。

・心の健康づくり事業において、「教育委員会や福祉課との連携を密にしていく必要がある。全国的には相談先の課として窓口を一つにしている地域もあるようだ。」との意見が出された。

・マイタウンバス運行事業において、「現時点では交通空白地域の解消につなげることができているが、今後の状況変化により、新路線や新交通モードの検討・導入が必要になってくるかもしれない。また、スクールバスや患者輸送バスとの連携も視野に入れていくべきである。」という意見が出された。

以上により「見直し余地がある」という評価に至った。

(3) 効率性評価 (コストの削減? 業務改善による人員や時間の削減は?)

マイタウンバス運行事業において、「事業者側ともよく協議して運営コストの削減努力もすべき」との意見により「見直し余地がある」という評価に至った。

(4) 公平性評価 (一部の受益者を対象にしていないか? 偏っていないか?)

公平性評価に関しては、すべての事業で「適切」という評価になった。

3 事業別の評価結果

(1) 消費者行政推進事業

| 評価の視点 | 市（担当課）の評価 | 行政評価委員会の評価 |
|-------|-----------|------------|
| 目的妥当性 | 適切 | 適切 |
| 有効性 | 適切 | 適切 |
| 効率性 | 適切 | 適切 |
| 公平性 | 適切 | 適切 |

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 現状で継続

②全体所感・市への提案

- パンフレットを各世帯に配布するなどをして目を通してもらうことが大切である。
- 個人情報の漏洩は思わぬところから流れているので注意喚起してほしい。（無料の Wi-Fi（セキュリティが脆弱で盗み取られる）、SNS、Facebook、ヤフー、ベネッセ など）
- 高齢の方でも SNS などを利用している方がいるので、ハッシュタグで「188（消費者ホットライン）」などを拡散することも有効であると思う。（パンフレットなどを使わずいろんな世代に発信できる）

(2) 学校サポート員配置事業

| 評価の視点 | 市（担当課）の評価 | 行政評価委員会の評価 |
|-------|-----------|------------|
| 目的妥当性 | 適切 | 適切 |
| 有効性 | 適切 | 適切 |
| 効率性 | 適切 | 適切 |
| 公平性 | 適切 | 適切 |

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 事業統廃合・連携

（関連事業：幼保小連携事業）

※幼保小連携事業についてはR6年度から連携を開始しているが今後更なる連携が期待できることから、今後の事業の方向性として事業統廃合・連携を選択。

② 全体所感・市への提案

- サポート員の資格については特に決めていないが、ニーズに応じた採用ができています。
- 市の将来を担う児童生徒にとって必要なものであり、公的機関が実施すべきものである。
- この事業のみでの解決だけではなく、住民の協力も含めた社会教育としての考え方も必要ではないか？
- 一人も取りこぼすことなく支援をしていくための連携が必要。
- 多様なニーズに対応していく必要がある。
- ニーズを見極めて適切な支援をしていくことの判断を行う就学支援委員会の仕事はとても重要だと思った。
- 子どもの数が減少しているのにサポート員の人数が増えているのはなぜなのか？と感じた。
- 特別な教育支援を必要とする児童生徒に対して、学校生活サポート委員の配置事業は大変重要なものであることが分かった。

(3) 学校給食センター管理事業

| 評価の視点 | 市（担当課）の評価 | 行政評価委員会の評価 |
|-------|-----------|------------|
| 目的妥当性 | 適切 | 適切 |
| 有効性 | 適切 | 適切 |
| 効率性 | 適切 | 適切 |
| 公平性 | 適切 | 適切 |

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 現状で継続

② 全体所感・市への提案

- 保護者の負担軽減になっている。
- 子どもたちの楽しみになっている。
- 子どもは減るが費用（人件費）などが減るわけではない
- 施設の老朽化も今後進む→いずれは北部・南部の集約化も検討する可能性もある。
- 児童、生徒数も減少する、食材費も人件費も上昇する中、給食が継続できるよう頑張ってもらいたい。

(4) 合川・米内沢駅管理事業

| 評価の視点 | 市（担当課）の評価 | 行政評価委員会の評価 |
|-------|-----------|------------|
| 目的妥当性 | 適切 | 適切 |
| 有効性 | 適切 | 見直し余地あり |
| 効率性 | 適切 | 適切 |
| 公平性 | 適切 | 適切 |

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 現状で継続

② 全体所感・市への提案

- 現状の方法が最適であるように感じる。
- 現在の委託先が無くなった場合の新たな委託先が見つかるかの問題があるのではないかな。
- 利用者の増加などを通じて利益の向上などにつなげられたら良い。
- 現実的には難しいかもしれないが、複合的な機能をもった駅にすることによって連携の可能性があるのでないかな。
- ハッピーデリバリーの事業委託は成功しているように見える。
- 駅の待合室に冷房やWi-Fiがあれば学生たちが駅で快適に過ごせるのではないかな。
- レンタサイクルやストリートピアノの周知にSNSを活用してはどうか。
- どうしても有人化を進めるべきか（機械、AIの導入など）。
- 自主財源を得る方法を検討してほしい。
- 成田為三などを地元の駅で紹介してほしい。

(5) 心の健康づくり事業

| 評価の視点 | 市（担当課）の評価 | 行政評価委員会の評価 |
|-------|-----------|------------|
| 目的妥当性 | 適切 | 適切 |
| 有効性 | 見直し余地あり | 見直し余地あり |
| 効率性 | 適切 | 適切 |
| 公平性 | 適切 | 適切 |

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 事業のやり方改善による成果向上

② 全体所感・市への提案

- 教育委員会や福祉課との連携を密にしていく必要がある。
- 全国的には相談課として窓口をひとつにしている地域もある。
- 自殺者は H11 年がピーク。H12 年度から事業を実施し、自殺者は減少しているが、コロナをきっかけにやや増加傾向。
- 妊産婦のうつ傾向が増加→訪問回数を増やすなどの対応をしている。
- 全体で男：40～50 代、女：70～80 代。若年層は現在のところいないが、思春期特有の問題（SNS やオーバードーズなど）が増えている。
→自殺につながる可能性も考えられる。（教育委員会との連携が始まった。）
- 今後もこのまま事業を継続してほしい。

(6) 北秋田市事業承継支援事業

| 評価の視点 | 市（担当課）の評価 | 行政評価委員会の評価 |
|-------|-----------|------------|
| 目的妥当性 | 適切 | 適切 |
| 有効性 | 適切 | 適切 |
| 効率性 | 適切 | 適切 |
| 公平性 | 適切 | 適切 |

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 事業のやり方改善による成果向上
- 事業統廃合・連携
- 現状で継続

② 全体所感・市への提案

- 全国に事業承継の情報を発信して担い手のマッチングを図ることができており、意義がある事業であると感じる。
- 行政が担うことにより、地域や事業者、継承者が安心して取り組むことができる環境になっている。
- 事業承継のハードルを下げることに繋がっている。
- 経済産業省、総務省の好事例自治体として取り上げられているほか、全国過疎連盟や他自治体から視察を受けている状況であり、高水準な成果を出せているといえる。
- 今後、移住者支援事業者や新規就農事業などと連携して取り組むことで成果の向上を図ることができる。
- 地域おこし協力隊をうまく活用できている例だと感じる。
- 引き続き頑張ってほしい事業であると感じる。
- 関連機関との密な連携や、更なる事業の周知を図る必要があると感じる。
- 人間力が必要な事業であると思うので、人間力を今後も引き継いで行ってほしいと思う。
- 地域に対する思いを強く持って行ってほしい事業である。

(7) ハッピーアニバーサリー事業

| 評価の視点 | 市（担当課）の評価 | 行政評価委員会の評価 |
|-------|-----------|------------|
| 目的妥当性 | 適切 | 適切 |
| 有効性 | 適切 | 適切 |
| 効率性 | 適切 | 適切 |
| 公平性 | 適切 | 適切 |

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 事業のやり方改善による成果向上 ■事業のやり方改善による延べ業務時間削減
- 現状で継続

② 全体所感・市への提案

- 市として喫緊の課題である少子化の抑制にもつながっていくことから、市が実施すべき事業。
- 対象妊婦に 100%贈呈しており、満足度が高いことから、事業継続により今後も成果向上が期待できる。
- 妊婦のための支援給付事業との連携により、独自のさらに充実した事業となっている。子育て相談係と同じフロアであるため、十分な連携がとれている。
- 対象者に 100%贈呈しており、公平・公正であり、適正である。
- 妊婦の心身の慰労及び子の誕生を祝うことが目的なので、既存のカタログ以外に、気分転換や育児負担の軽減のため、お食事券の提供等を提言した。
- 居住・子育て・教育等をパッケージにして事業化することで、少子化への抑制対策につながると期待する。
- 事業のレベルアップのためにも、ニーズに応じて記念品や贈呈品の検討と事業の改善を、随時改善しながら展開していただきたい。

(8) マイタウンバス運行事業

| 評価の視点 | 市（担当課）の評価 | 行政評価委員会の評価 |
|-------|-----------|------------|
| 目的妥当性 | 適切 | 適切 |
| 有効性 | 見直しの余地あり | 見直しの余地あり |
| 効率性 | 見直しの余地あり | 見直しの余地あり |
| 公平性 | 適切 | 適切 |

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 事業のやり方改善による成果向上
- 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
- 事業統廃合・連携
- 現状で継続

② 全体所感・市への提案

- 市民の生活交通手段のための事業として適切に運営されている。
- 住民福祉や地域活性化の観点からも行政が関与すべき公共サービスである。
- 現時点では交通空白地域の解消につなげることができているが、今後の状況変化により、新たに新路線や新交通モードの検討・導入が必要になってくるかもしれない。
- スクールバスや患者輸送バスとの連携も視野に入れていくべきである。
- 事業者側ともよく協議して運営コストの削減努力もすべき。
- バス・タクシー事業者も厳しい状況であるので、できるだけ応援してあげてほしい。
- 大変地道な事業であるが、交通空白地域のための事業でもあり、市民にとって重要な事業である。
- 運用方法などの分かりやすさをもっと追及してほしい。
- 地域ごとの公共交通利用目的などの違いを分析し、それぞれの地域にあった運営を検討してはどうか。
- 北秋田市内全域にいたるまで考えられた事業だと思った。

令和7年度行政評価委員評価後アンケート

(1) 事務事業評価資料（マネジメントシート）の記載内容について

- ・マネジメントシートは・分かりやすい言葉で概ね表現されていたと思うが、評価が難しい事業もあった。
- ・マネジメントシートに記載されている内容より、口頭での説明がかなり重要であったので補足資料が必要と感じた事業もあった。
- ・マネジメントシートは分かりやすく、担当者からの説明及び質問への回答もあり大変よかった。
- ・評価の際の視点が具体的に示されていて評価しやすい。（例：行政関与の妥当性→なぜこの事業を市が行わなければいけないのか。税金を投入して実施すべきか。）
- ・市民ニーズの把握が少し足りない。

(2) 評価ヒアリング時における職員の対応について

- ・質問に対して的確な回答でとても分かりやすかった。
- ・非常に分かりやすく、こちらが聞きたいことにも真摯に答えていただいた。
- ・担当者の業務への熱意を感じることもあり良かったと思う。
- ・説明により具体的に内容を把握することができた。

(3) 行政評価委員会における評価の進め方について

- ・発表者と書記がほぼ毎回同じ人になっており、偏りがあるので公平にしてほしい。
- ・モニター、プロジェクター等が導入され、パソコン入力になり、とてもスムーズになったと思う。
- ・マネジメントシートのほか、説明資料を事前に配布してもらえれば当日の会議に支障がないと思う。
- ・議題に対してもう少し意見交換ができたりすればよかったと思う。
- ・事業によっては話し合いが盛り上がり十分に議論できていないときがあった。進め方は問題ないと思う。

(4) その他、行政評価委員会運営に関して改善すべき点や気付いた点について

- ・評価事業について、一度のみ改善され、その後はまた元に戻ってしまったのが残念だった。行政評価委員会での評価が意味があるのか疑問に思う。
- ・各委員の体調面など仕方のない部分もあるとは思いますが、今年度は委員の出席率があまりよくなかったように感じた。参加者が少ない時には部会にこだわらず委員を再配分したり、あらかじめ補欠委員などを決めておいて必要に応じて参加してもらおうなど、何らかの対策が必要かもしれない。
- ・委員会メンバーの欠席者が目立ち、適切な評価ができていたのか疑問が残る。委員会メンバーの選任を大事にして欲しいと思う。行政評価委員会の意義が薄れないように努めてほしい。
- ・第4回委員会で第1部会への出席者が1名のみでした。それぞれの委員の都合が優先されるでしょうが、事前に出席者の把握をされた政策系の調整が必要であると感じた。
- ・成果については目標が達成できているか進捗状況も含めて四半期ごとに検証されてみてはいかがでしょうか。進捗管理を行うことで目標達成がスムーズに行えると思いますし、途中で出てきた課題などにも対応できるかと思えます。（例：熊の出没が増えた際の予算執行、補正予算等）
- ・評価対象事業の選択が難しい。評価をしてみて、課題や改善点などを見つけることができればよいが、現状維持がベストであれば、対象事業として選択してよかったのか、と少し疑問を持ってしまう。
- ・昨年度「きたあきた赤ちゃん応援事業」、今年度「ハッピーアニバーサリー事業」と類似した事業の評価になってしまった。

- ・委員の方が、みな北秋田市に愛着を持ち、北秋田市を良くしていこうとしているのを感じた。委員には地域のことや一定の分野に詳しい方が多く、事業について深く理解し議論できているのは、この委員会が開催される意義として大変重要であると思った。一方で、より広く、一般的な市民にもこのような会に参加する機会や、このような委員会があることを周知することができればよいと思った。
- ・市民が本当に願っていることや困っていることをもう少し考えられないか。

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名:第1部会

対象事業名:消費者行政推進事業

| | | | |
|-----------------|-------|--|---|
| 対象 (誰が、何が) | 北秋田市民 | I. 目的妥当性評価 ①対象・意図・上位目的の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か? <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである) <input checked="" type="checkbox"/> 適切である (気になった点・出された意見等) | |
| | 被害の救済 | | ②公共関与(行政関与)の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か? <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である (行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である) (気になった点・出された意見等) |
| | 結果... | | |
| 意図 (どうなることで) | | | |
| 上位目的 (どうなる) | | | |

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名:第1部会

対象事業名:消費者行政推進事業

| | | |
|---------|---|--|
| 成果指標と実績 | 消費トラブル相談件数 R6実績 103件 R5実績 100件 R4実績 105件 | II. 有効性評価 ③成果の向上余地 あるべき水準や目標に達しているか?現在の活動内容で成果の向上が期待できるか? <input type="checkbox"/> 見直し余地がある(成果実績は十分でない) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(成果実績は十分な水準である) (気になった点・出された意見等) 9割解決されている |
| | 消費トラブル相談 R6実績 103件 R5実績 100件 R4実績 105件 | |
| 活動指標と実績 | | ④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか? <input type="checkbox"/> 他に手段がある <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる <input type="checkbox"/> 既に統廃合・連携している <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない (気になった点・出された意見等) |

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名:第1部会

対象事業名:消費者行政推進事業

活動
指標と
実績

消費トラブル相談
R6実績 103件
R5実績 100件
R4実績 105件

コスト
(かかる費用)

事業費
R6実績 : 3,556千円
R5実績 : 2,724千円
R4実績 : 3,000千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

事務事業評価 ワークシート4

班名:第1部会

対象事業名:消費者行政推進事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1~3での評価結果を踏まえて)

| | | |
|---------|--|----------------------------------|
| I 目的妥当性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| II 有効性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| III 効率性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| IV 公平性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

- 目的再設定
- 事業のやり方改善による成果向上
- 廃止・休止
- 費用負担の適正化
- 行政関与の見直し
- 受益機会の適正化
- 事業のやり方改善による事業費削減
- 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
- 事業統廃合・連携
- 現状で継続

(関連事業:)

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

- ・パンフレットを各世帯に配布するなどをして目を通してもらうことが大切である。
 - ・個人情報情報の漏洩は思わぬところから流れているので注意喚起してほしい。
- (無料のWi-Fi(セキュリティが脆弱で盗み取られる)、SNS、Facebook、ヤフー、ベネッセ など)

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

- ・高齢の方でもSNSなどを利用している方がいるので、ハッシュタグで「188(消費者ホットライン)」などを拡散することも有効であると思う。(パンフレットなどを使わずいろんな世代に発信できる)

| | | |
|--------------------------------|--|--|
| <p>対象 (誰が、何が)</p> | <p>特別な教育支援を必要とする児童生徒</p> | <p>I. 目的妥当性評価</p> <p>①対象・意図・上位目的の妥当性</p> <p>この事務事業の目的（対象と意図）について、上位目的（＝総合計画での方向性）や市民感覚と照し合わせると適切か？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある (目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>サポート員の資格については特に決めていないが、ニーズに応じた採用ができている。 就学支援委員会の中で対象児童を選定している。</p> <p>②公共関与(行政関与)の妥当性</p> <p>この事務事業の目的（対象と意図）は行政（市）が税金を使って果たす目的か？民間や受益者ができる事業か？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある (行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 妥当である (行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>市の将来を担う児童生徒にとって必要なものであり、公的機関が実施すべきものである。</p> |
| <p>意図 (どうなることで)</p> | <p>サポート員の支援により学校生活に適應することができる。</p> | |
| <p>上位目的 (どうなる)</p> | <p>サポート員による支援により学校生活等が充実していくことで、徐々に支援を必要としなくなるほか、周りの児童生徒も落ち着いて学習に取り組むことができる。</p> | |

結果...

| | | |
|-----------------------|--|---|
| <p>成果指標と実績</p> | <p>サポート員数 R6実績 32人 R5実績 30人 R4実績 30人</p> | <p>II. 有効性評価</p> <p>③成果の向上余地</p> <p>あるべき水準や目標に達しているか？現在の活動内容で成果の向上が期待できるか？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある(成果実績は十分でない)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(成果実績は十分な水準である)</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>北秋田市独自でサポート員の支援と通級クラスの指導を行っている点を評価する。</p> <p>④類似事業との統廃合・連携の可能性</p> <p>目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 統廃合ができる <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 既に統廃合・連携している <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない</p> <p><input type="checkbox"/> 他に手段がない</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>すべての子供に格差なく学びや生活の基盤をはぐくむための支援を目標としている。 幼保小連携事業をR6年度から実施していることで、今後さらに連携していくことが期待される。</p> |
| <p>活動指標と実績</p> | <p>ア：児童生徒数 R6 1,434人 R5 1,511人 R4 1,564人 イ：支援対象児童生徒数 R6 178人 R5 180人 R4 153人 ウ：サポート員数 R6 32人 R5 30人 R4 30人</p> | |

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名：第2部会

対象事業名：学校生活サポート員配置事業

活動
指標と
実績

| |
|-------------|
| ア：児童生徒数 |
| R6 1,434人 |
| R5 1,511人 |
| R4 1,564人 |
| イ：支援対象児童生徒数 |
| R6 178人 |
| R5 180人 |
| R4 153人 |
| ウ：サポート員数 |
| R6 32人 |
| R5 30人 |
| R4 30人 |

コスト
(かかる費用)

| |
|---------------|
| 事業費 |
| R6実績：77,375千円 |
| R5実績：58,725千円 |
| R4実績：55,102千円 |

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)
この事業のみでの解決だけではなく、住民の協力も含めた社会教育としての考え方も必要ではないか？

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)
支援を必要としている児童数は年々増加している。

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)
公平公正でなければいけない。

事務事業評価 ワークシート4

班名：第2部会

対象事業名：学校生活サポート員配置事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

| | | |
|---------|--|----------------------------------|
| I 目的妥当性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| II 有効性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| III 効率性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| IV 公平性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

- 目的再設定 事業のやり方改善による成果向上
 - 廃止・休止 費用負担の適正化
 - 行政関与の見直し 受益機会の適正化
 - 事業のやり方改善による事業費削減
 - 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
 - 事業統廃合・連携 現状で継続
- (関連事業：幼保小連携事業)

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

一人も取りこぼすことなく支援をしていくための連携が必要。

多様なニーズに対応していく必要がある。

ニーズを見極めて適切な支援をしていくことの判断を行う就学支援委員会の仕事はとても重要だと思った。

子どもの数が減少しているのにサポート員の人数が増えているのはなぜなのか？と感じた。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

特別な教育支援を必要とする児童生徒に対して、学校生活サポート委員の配置事業は大変重要なものであることが分かった。

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名:第1部会

対象事業名:学校給食センター管理運営事業

| | | |
|----------------|---|---|
| 対象 (誰が、何が) | 児童・生徒 | I. 目的妥当性評価 ①対象・意図・上位目的の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か? <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである) <input checked="" type="checkbox"/> 適切である (気になった点・出された意見等) ・保護者の負担軽減になっている。 ・子どもたちの楽しみになっている。 |
| | 意図 (どうなることで) | |
| 上位目的 (どうなる) | 結果... ・学校生活において、児童生徒が給食に対し、幸福感を抱いてほしい。 | |

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名:第1部会

対象事業名:学校給食センター管理運営事業

| | | |
|---------|--|--|
| 成果指標と実績 | 地場産率 (県調査主要41品目) ア:秋田県産 R6実績 79.3% R5実績 78.8% R4実績 81.6% イ:北秋田市産 R6実績 38.9% R5実績 36.0% R4実績 21.7% | II. 有効性評価 ③成果の向上余地 あるべき水準や目標に達しているか?現在の活動内容で成果の向上が期待できるか? <input type="checkbox"/> 見直し余地がある(成果実績は十分でない) <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(成果実績は十分な水準である) (気になった点・出された意見等) ・秋田県産や北秋田市産の食材(野菜、米、肉、魚等)により食育が行われる。 |
| | 活動指標と実績 ア:年間給食提供数 R6実績 325,953件 R5実績 340,625件 R4実績 353,674件 イ:小学校・中学校・義務教育学校数 R6実績 10校 R5実績 11校 R4実績 13校 ウ:比内支援学校たかのす校給食受託 R6実績 1校 R5実績 1校 R4実績 1校 | |

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名：第1部会

対象事業名：学校給食センター管理運営事業

活動
指標と
実績

ア：年間給食提供数
R6実績 325,953件
R5実績 340,625件
R4実績 353,674件
イ：小学校・中学校・義務教育学校数
R6実績 10校
R5実績 11校
R4実績 13校
ウ：比内支援学校たかのす校給食受託
R6実績 1校
R5実績 1校
R4実績 1校

コスト
(かかる費用)

事業費
R6実績：324,177千円
R5実績：328,810千円
R4実績：296,543千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

・現在北部780食、南部320食、もりよし650食

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

・アレルギー対応している児童・生徒は47人。

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

・R7年度の単価は385円(1食)

・R7年度から児童、生徒の分は無償化となっている。

事務事業評価 ワークシート4

班名：第1部会

対象事業名：学校給食センター管理運営事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性 適切 見直し余地あり
II 有効性 適切 見直し余地あり
III 効率性 適切 見直し余地あり
IV 公平性 適切 見直し余地あり



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

目的再設定 事業のやり方改善による成果向上
 廃止・休止 費用負担の適正化
 行政関与の見直し 受益機会の適正化
 事業のやり方改善による事業費削減
 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
 事業統廃合・連携 現状で継続

(関連事業：)

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

- ・子どもは減るが費用(人件費)などが減るわけではない
- ・施設の老朽化も今後進む→いずれは北部・南部の集約化も検討する可能性もある

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

- ・児童、生徒数も減少する、食材費も人件費も上昇する中、給食が継続できるよう頑張ってもらいたい。

| | | |
|--------------------------------|---|---|
| <p>対象 (誰が、何が)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・園児児童生徒を含めた沿線住民 ・市内外の利用者 | <p>I. 目的妥当性評価</p> <p>①対象・意図・上位目的の妥当性</p> <p>この事務事業の目的（対象と意図）について、上位目的（＝総合計画での方向性）や市民感覚と照し合わせると適切か？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある (目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・現状の方法が最適であるように感じる</p> |
| <p>意図 (どうなることで)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・沿線住民の通学通勤等の利用（通学定期補助） ・沿線の学校・保育園行事等での利用（運賃助成補助） ・上記を含めた市内外の利用者が快適に駅を利用することができる | <p>②公共関与（行政関与）の妥当性</p> <p>この事務事業の目的（対象と意図）は行政（市）が税金を使って果たす目的か？民間や受益者ができる事業か？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある (行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 妥当である (行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・駅の有人化によって乗客の安全が保たれているため税金の使い道として適切である</p> |
| <p>上位目的 (どうなる)</p> | <p style="text-align: center;">結果...</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅を核としたまちづくりによる快適な暮らし | |

| | | |
|-----------------------|---|--|
| <p>成果指標と実績</p> | <p>ア:通学定期利用者（2駅）</p> <p>R6実績 61人 R5実績 71人 R4実績 83人</p> <p>イ:合川・米内沢保育園、合川小中学校、米内沢小学校、森吉中学校への運賃助成</p> <p>R6実績 262人 R5実績 134人 R4実績 65人</p> <p>ウ:スタッフ駐在中の乗降人員（左:合川駅、右:米内沢駅）</p> <p>R6実績 12,833人/11,117人 R5実績 13,569人/13,171人 R4実績 12,115人/12,436人</p> | <p>II. 有効性評価</p> <p>③成果の向上余地</p> <p>あるべき水準や目標に達しているか？現在の活動内容で成果の向上が期待できるか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある(成果実績は十分でない)</p> <p><input type="checkbox"/> 妥当である(成果実績は十分な水準である)</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・現在の委託先が無くなった場合の新たな委託先が見つかるかの問題があるのではないか</p> <p>・利用者の増加などを通じて利益の向上などにつながれば良い</p> |
| <p>活動指標と実績</p> | <p>ア:駅スタッフ人数（左:合川駅、右:米内沢駅）</p> <p>R6実績 2人/2人 R5実績 2人/2人 R4実績 2人/2人</p> <p>イ:普通切符販売件数（左:合川駅、右:米内沢駅）</p> <p>R6実績 2,067件/2,413件 R5実績 2,365件/2,546件 R4実績 2,042件/2,342件</p> <p>ウ:切符販売手数料収入（左:合川駅、右:米内沢駅）</p> <p>R6実績 246千円/215千円 R5実績 261千円/274千円 R4実績 237千円/262千円</p> | <p>④類似事業との統廃合・連携の可能性</p> <p>目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？</p> <p><input type="checkbox"/> 他に手段がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる</p> <p><input type="checkbox"/> 既に統廃合・連携している <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない</p> <p><input type="checkbox"/> 他に手段がない</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・現実的には難しいかもしれないが、複合的な機能をもった駅にすることによって連携の可能性があるのではないか</p> |

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名：第2部会

対象事業名：合川・米内沢駅管理事業

活動
指標と
実績

ア：駅スタッフ人数
(左：合川駅、右：米内沢駅)
R6実績 2人/2人
R5実績 2人/2人
R4実績 2人/2人
イ：普通切符販売件数
(左：合川駅、右：米内沢駅)
R6実績 2,067件/2,413件
R5実績 2,365件/2,546件
R4実績 2,042件/2,342件
ウ：切符販売手数料収入
(左：合川駅、右：米内沢駅)
R6実績 246千円/215千円
R5実績 261千円/274千円
R4実績 237千円/262千円

コスト
(かかる費用)

事業費
R6実績：6,901千円
R5実績：6,737千円
R4実績：6,747千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

・合川・米内沢駅以外の駅でも予算を検討してほしい

事務事業評価 ワークシート4

班名：第2部会

対象事業名：合川・米内沢駅管理事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性 適切 見直し余地あり
II 有効性 適切 見直し余地あり
III 効率性 適切 見直し余地あり
IV 公平性 適切 見直し余地あり



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

目的再設定 事業のやり方改善による成果向上
 廃止・休止 費用負担の適正化
 行政関与の見直し 受益機会の適正化
 事業のやり方改善による事業費削減
 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
 事業統廃合・連携 現状で継続

(関連事業:)

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

- ・ハッピーデリバリーの事業委託は成功しているように見える
- ・駅の待合室に冷房やWi-Fiがあれば学生たちが駅で快適に過ごせるのではないかな
- ・レンタサイクルやストリートピアノの周知にSNSを活用してはどうか
- ・どうしても有人化を進めるべきか(機械、AIの導入など)
- ・自主財源を得る方法を検討してほしい
- ・成田為三などを地元の駅で紹介してほしい

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

| | | |
|--------------------------------|--|--|
| <p>対象 (誰が、何が)</p> | <p>市民</p> | <p>I. 目的妥当性評価</p> <p>①対象・意図・上位目的の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある (目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・</p> <p>②公共関与(行政関与)の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か?民間や受益者ができる事業か?</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある (行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 妥当である (行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・</p> |
| <p>意図 (どうなることで)</p> | <p>悩みを抱えている人や自殺リスクが高い人など介入支援が必要な人へ支援することで解決の糸口を見つけることができる。</p> | |
| <p>上位目的 (どうなる)</p> | <p>誰もが自殺に追い込まれることのない社会づくりを目指す。</p> | |

| | | |
|-----------------------|---|---|
| <p>成果指標と実績</p> | <p>心の健康相談をする人数(来所、訪問、電話での保健師相談対応等)</p> <p>R6実績 29件 R5実績 26件 R4実績 24件</p> | <p>II. 有効性評価</p> <p>③成果の向上余地 あるべき水準や目標に達しているか?現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある(成果実績は十分でない)</p> <p><input type="checkbox"/> 妥当である(成果実績は十分な水準である)</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・教育委員会や福祉課との連携を密にしていく必要がある。</p> <p>・全国的には相談課として窓口をひとつにしている地域もあるようだ。(北秋田市はまだ)</p> |
| <p>活動指標と実績</p> | <p>ア:心のふれあい相談員新規認定者数</p> <p>R6実績 5人 R5実績 7人 R4実績 16人</p> <p>イ:心の講演会参加者数</p> <p>R6実績 78人 R5実績 87人 R4実績 83人</p> | |

④類似事業との統廃合・連携の可能性
目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

他に手段がある

統廃合ができる 連携ができる

既に統廃合・連携している 統廃合・連携ができない

他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

・

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名：第1部会

対象事業名：心の健康づくり事業

活動
指標と
実績

ア：心のふれあい相談員新規
認定者数
R6実績 5人
R5実績 7人
R4実績 16人
イ：心の講演会参加者数
R6実績 78人
R5実績 87人
R4実績 83人

コスト
(かかる費用)

事業費
R6実績：708千円
R5実績：999千円
R4実績：795千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である

（気になった点・出された意見等）

事務事業評価 ワークシート4

班名：第1部会

対象事業名：心の健康づくり事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性 適切 見直し余地あり
II 有効性 適切 見直し余地あり
III 効率性 適切 見直し余地あり
IV 公平性 適切 見直し余地あり



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

目的再設定 事業のやり方改善による成果向上
 廃止・休止 費用負担の適正化
 行政関与の見直し 受益機会の適正化
 事業のやり方改善による事業費削減
 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
 事業統廃合・連携 現状で継続

(関連事業：)

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

・自殺者はH11年がピーク。H12年度から事業を実施し、自殺者は減少しているが、コロナをきっかけにやや増加傾向となった。(妊産婦が多い傾向)

・全体的に男：40～50代、女：70～80代。若年層は現在のところいないが、思春期特有の問題(SNSやオーバードーズなど)が増えている。→自殺につながる可能性も考えられる。(教育委員会との連携が始まった)

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

このまま事業を継続してほしい。

| | | |
|--------------------------------|--|---|
| <p>対象 (誰が、何が)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・第三者承継 ・サプライチェーン承継 | <p>I. 目的妥当性評価</p> <p>①対象・意図・上位目的の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある (目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・全国に事業承継の情報を発信して担い手のマッチングを図ることができており、意義がある事業であると感じる</p> <p>②公共関与(行政関与)の妥当性 この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある (行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 妥当である (行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・行政が担うことにより、地域や事業者、継承者が安心して取り組むことができる環境になっている</p> <p>・事業承継のハードルを下げるにつながっている</p> |
| <p>意図 (どうなることで)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・個人についてはジョブチェンジの一つとして、また、企業における事業譲渡はサプライチェーンが崩れること無く安定した操業に繋がる。 | |
| <p>上位目的 (どうなる)</p> | <p>結果...</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の外から稼ぐ力を高め、地域内経済の循環、ひとの流れを呼び込む取組を推進することで、人口減少が進んでも担い手の育成・人材の確保を図り、地域の活力となる仕事づくり、稼ぐ地域づくりに繋がる。 | |

| | | |
|-----------------------|---|---|
| <p>成果指標と実績</p> | <p>事業承継補助金</p> <p>R6実績 3,000千円</p> <p>R5実績 3,000千円</p> <p>R4実績 3,000千円</p> | <p>II. 有効性評価</p> <p>③成果の向上余地 あるべき水準や目標に達しているか?現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある(成果実績は十分でない)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 妥当である(成果実績は十分な水準である)</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・経済産業省、総務省の好事例自治体として取り上げられているほか、全国過疎連盟や他自治体から視察を受けている状況であり、高水準な成果を出せているといえる。</p> <p>④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?</p> <p><input type="checkbox"/> 他に手段がある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 統廃合ができる <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 既に統廃合・連携している <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない</p> <p><input type="checkbox"/> 他に手段がない</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・今後、移住者支援事業や新規就農事業などと連携して取り組むことで成果の向上を図ることができる。</p> |
| <p>活動指標と実績</p> | <p>ア:新規掲載事業者</p> <p>R6実績 4人</p> <p>R5実績 3人</p> <p>R4実績 3人</p> <p>イ:現地視察作業体験</p> <p>R6実績 10人</p> <p>R5実績 9人</p> <p>R4実績 1人</p> | |

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名：第2部会

対象事業名：北秋田市事業承継支援事業

活動
指標と
実績

ア：新規掲載事業者
R6実績 4人
R5実績 3人
R4実績 3人
イ：現地視察作業体験
R6実績 10人
R5実績 9人
R4実績 1人

コスト
(かかる費用)

事業費
R6実績：17,706千円
R5実績：3,660千円
R4実績：3,495千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

・特になし

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

・地域おこし隊をうまく活用できている例だと感じる

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

・特になし

事務事業評価 ワークシート4

班名：第2部会

対象事業名：北秋田市事業承継支援事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性 適切 見直し余地あり
II 有効性 適切 見直し余地あり
III 効率性 適切 見直し余地あり
IV 公平性 適切 見直し余地あり



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

目的再設定 事業のやり方改善による成果向上
 廃止・休止 費用負担の適正化
 行政関与の見直し 受益機会の適正化
 事業のやり方改善による事業費削減
 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
 事業統廃合・連携 現状で継続
(関連事業：移住定住、新規就農事業)

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

- ・引き続き頑張ってほしい事業であると感じる
- ・関連機関との密な連携や、更なる事業の周知を図る必要があると感じる

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

- ・人間力が必要な事業であると思うので、人間力を今後も引き継いで行ってほしいと思う
- ・地域に対する思いを強く持っておこなってほしい事業である

| | |
|--------------------------------|------------------------|
| <p>対象 (誰が、何が)</p> | 子の誕生を控えた（妊婦）世帯 |
| <p>意図 (どうなることで)</p> | マタニティブルーの解消及び、経済的負担の軽減 |
| <p>結果...</p> | |
| <p>上位目的 (どうなる)</p> | 安心して結婚・出産・子育てできる環境の充実 |

I. 目的妥当性評価

①対象・意図・上位目的の妥当性
この事務事業の目的（対象と意図）について、上位目的（＝総合計画での方向性）や市民感覚と照し合わせると適切か？

見直し余地がある
(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

適切である

記念品と育児用品のカタログを作成して支給している。
北秋田市独自の取り組みであり、子の誕生を控えた妊婦の心身の慰労及び子の誕生を祝うことを目的にだいたい妊娠6～7か月のタイミングで支給。業者に委託しており、今年度は、秋北文具と契約。

②公共関与（行政関与）の妥当性
この事務事業の目的（対象と意図）は行政（市）が税金を使って果たす目的か？民間や受益者ができる事業か？

見直し余地がある
(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

妥当である
(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

市として喫緊の課題である少子化の抑制にもつながっていくことから、市が実施すべき事業。

| | |
|-----------------------|---|
| <p>成果指標と実績</p> | 事業対象者 R6実績 72人 R5実績 73人 R4実績 86人 記念品及び育児用品贈呈者 R6実績 72人 R5実績 73人 R4実績 86人 |
| <p>活動指標と実績</p> | 事業対象者 R6実績 72人 R5実績 73人 R4実績 86人 記念品及び育児用品贈呈者 R6実績 72人 R5実績 73人 R4実績 86人 |

II. 有効性評価

③成果の向上余地
あるべき水準や目標に達しているか？現在の活動内容で成果の向上が期待できるか？

見直し余地がある(成果実績は十分でない)

妥当である(成果実績は十分な水準である)

対象妊婦に100%贈呈しており、満足度が高いことから、事業継続により今後も成果向上が期待できる。

④類似事業との統廃合・連携の可能性
目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？

他に手段がある

統廃合ができる 連携ができる
 既に統廃合・連携している 統廃合・連携ができない
 他に手段がない

妊婦のための支援給付事業との連携により、独自のさらに充実した事業となっている。子育て相談係と同じフロアーであるため、十分な連携がとれている。

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名：第1部会

対象事業名：ハッピーアニバーサリー事業

活動
指標と
実績

事業対象者
R6実績 72人
R5実績 73人
R4実績 86人
記念品及び育児用品贈呈者
R6実績 72人
R5実績 73人
R4実績 86人

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

削減余地がある 削減余地がない

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

コスト
(かかる費用)

事業費
R6実績：3,942千円
R5実績：3,897千円
R4実績：4,593千円

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である

対象者に100%贈呈しており、公平・公正であり、適正である。さらに、今年度からは、委託業者が対象者宅へ、直接記念品等を手渡している。

事務事業評価 ワークシート4

班名：第1部会

対象事業名：ハッピーアニバーサリー事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

| | | |
|---------|--|----------------------------------|
| I 目的妥当性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| II 有効性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| III 効率性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| IV 公平性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

| | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 目的再設定 | <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善による成果向上 |
| <input type="checkbox"/> 廃止・休止 | <input type="checkbox"/> 費用負担の適正化 |
| <input type="checkbox"/> 行政関与の見直し | <input type="checkbox"/> 受益機会の適正化 |
| <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善による事業費削減 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 | |
| <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 | <input checked="" type="checkbox"/> 現状で継続 |

(関連事業:)

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

- ・妊婦の心身の慰労及び子の誕生を祝うことが目的なので、既存のカタログ以外に、気分転換や育児負担の軽減のため、お食事券の提供等を提言した。
- ・居住・子育て・教育等をパッケージにして事業化することで、少子化への抑制対策につながると期待する。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

事業のレベルアップのためにも、ニーズに応じて記念品や贈呈品の検討と事業の改善を、随時改善しながら展開していただきたい。

| | | |
|--------------------------------|--|---|
| <p>対象 (誰が、何が)</p> | <p>市民（路線バスの廃止・縮小等により、廃止・縮小路線沿線に居住する交通弱者）</p> | <p>I. 目的妥当性評価</p> <p>①対象・意図・上位目的の妥当性</p> <p>この事務事業の目的（対象と意図）について、上位目的（＝総合計画での方向性）や市民感覚と照し合わせると適切か？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある (目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 適切である</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>市民の生活交通手段のための事業として適切に運営されている</p> <p>②公共関与(行政関与)の妥当性</p> <p>この事務事業の目的（対象と意図）は行政（市）が税金を使って果たす目的か？民間や受益者ができる事業か？</p> <p><input type="checkbox"/> 見直し余地がある (行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 妥当である (行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>住民福祉や地域活性化の観点からも行政が関与すべき公共サービスである</p> |
| <p>意図 (どうなることで)</p> | <p>事業により、買い物や通院など日常生活における交通手段の確保が図られる</p> | |
| <p>上位目的 (どうなる)</p> | <p>市内において、「交通空白地域」や「交通不便地域」を生じさせない</p> | |

| | | |
|-----------------------|--|---|
| <p>成果指標と実績</p> | <p>マイタウンバス運行路線 (循環バス除く) R6実績 7路線 R5実績 6路線 R4実績 6路線</p> | <p>II. 有効性評価</p> <p>③成果の向上余地</p> <p>あるべき水準や目標に達しているか？現在の活動内容で成果の向上が期待できるか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある(成果実績は十分でない)</p> <p><input type="checkbox"/> 妥当である(成果実績は十分な水準である)</p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>・現時点では交通空白地域の解消につなげることができているが、今後の状況変化により、新たに新路線や新交通モードの検討・導入が必要になってくるかもしれない。</p> <p>④類似事業との統廃合・連携の可能性</p> <p>目的を達成するには、この事務事業の他（民間・国県を含む）に方法があるか？</p> <p><input type="checkbox"/> 他に手段がある</p> <p style="margin-left: 20px;"> <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる <input checked="" type="checkbox"/> 既に統廃合・連携している <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input type="checkbox"/> 他に手段がない </p> <p>(気になった点・出された意見等)</p> <p>スクールバスや患者輸送バスとの連携も視野に入れていくべきである</p> |
| <p>活動指標と実績</p> | <p>ア：マイタウンバス利用者（循環バス除く） R6実績 4,134人 R5実績 4,594人 R4実績 5,538人</p> <p>イ：マイタウンバス運行路線（循環バス除く） R6実績 7路線 R5実績 6路線 R4実績 6路線</p> <p>ウ：マイタウンバス運行費補助金 R6実績 11,440千円 R5実績 10,411千円 R4実績 11,444千円</p> | |

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名：第2部会

対象事業名：マイタウンバス運行事業

活動
指標と
実績

ア：マイタウンバス利用者（循環バス除く）
R6実績 4,134人
R5実績 4,594人
R4実績 5,538人
イ：マイタウンバス運行路線（循環バス除く）
R6実績 7路線
R5実績 6路線
R4実績 6路線
ウ：マイタウンバス運行費補助金
R6実績 11,440千円
R5実績 10,411千円
R4実績 11,444千円

コスト
(かかる費用)

事業費
R6実績：11,440千円
R5実績：10,411千円
R4実績：11,444千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）

・事業者側ともよく協議して運営コストの削減努力もすべき

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）

特になし

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である

（気になった点・出された意見等）

バス・タクシー事業者も厳しい状況であるので、できるだけ応援してあげてほしい

事務事業評価 ワークシート4

班名：第2部会

対象事業名：マイタウンバス運行事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性 適切 見直し余地あり
II 有効性 適切 見直し余地あり
III 効率性 適切 見直し余地あり
IV 公平性 適切 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

目的再設定 事業のやり方改善による成果向上
 廃止・休止 費用負担の適正化
 行政関与の見直し 受益機会の適正化
 事業のやり方改善による事業費削減
 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
 事業統廃合・連携 現状で継続

(関連事業：)

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

- ・大変地道な事業であるが、交通空白地域のための事業でもあり、市民にとって重要な事業である。
- ・運用方法などの分かりやすさをもっと追及してほしい
- ・地域ごとの公共交通利用目的などの違いを分析し、それぞれの地域にあった運営を検討してほしい

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

北秋田市全域にいたるまで考えられた事業だと思った。

【様式】

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

| 評価年度 | 令和6年度 | 事務事業名 | 不登校児童生徒対策事業 | |
|----------------------|---|-------|-------------|-----|
| 評価結果 | 目的妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| | 適切 | 適切 | 適切 | 適切 |
| 行政評価委員会 意見・提言等の内容 | <p>1. 高校進学を目標にすることで、適応指導教室への進級ができています。</p> <p>2. リフレッシュ学園とさわやか教室のそれぞれの特徴を生かして、生徒の状況に合わせた対応ができています。</p> <p>3. さわやか教室に登校できていない生徒にも何かしら（ステップアップ教室等）の対応をしている。</p> <p>4. なるべく個々のニーズに応じた対応に期待したい。</p> <p>5. 理想としては、鷹巣、合川、森吉、阿仁の地区毎のニーズに応じて、さわやか教室を開催してもらいたい。</p> <p>6. 不登校児童が外出するきっかけを作るいい事業である。</p> <p>7. 自宅、学校以外を知るいい機会を作る事業であることを評価したい。</p> | | | |
| 担当課 | <p>1. 学校と保護者との相談等を通じて進路希望を把握し、目標に向かって学習に取り組むことができるよう、適応指導教室を選択肢の一つとして紹介してまいります。</p> <p>2. 適応指導教室は学習指導、リフレッシュ学園は体験活動を中心としながら、児童生徒の状況やニーズに合った運営を続けてまいります。</p> <p>3. 児童生徒が自ら選択している場合もあり、今後もそれぞれの状況を踏まえて選択肢を提示してまいります。</p> <p>4. 上記2及び3と同様</p> <p>5. それぞれの地域でのニーズ、教室設置の場所や人材確保等、課題について検討してまいります。</p> <p>6. 上記1～3に同じ</p> <p>7. 周知について継続して取り組んでいくとともに、事業継続ができるよう努めます。</p> | | | |

【様式】

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

| 評価年度 | 令和6年度 | 事務事業名 | あんしん電話（緊急通報システム）設置事業 | |
|----------------------|--|---------|----------------------|-----|
| 評価結果 | 目的妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| | 見直し余地あり | 見直し余地あり | 適切 | 適切 |
| 行政評価委員会 意見・提言等の内容 | <p>1. インターネットを利用したものなど新しいサービスの検討、機器のリニューアルも必要ではないか。</p> <p>2. 民間事業との連携。</p> <p>3. 障がいの度合いによって受けるサービス内容を考える必要がある。（聴覚障害等）</p> <p>4. 事業費の削減余地については社協との連携で登録、休止を確実にする。（リース料について）</p> <p>5. 意見として、単身者の方へのフォローも必要ではないか。</p> <p>6. あんしん電話の落とし穴（あんしん電話があるから安心とってしまう）。より多くの方が使える、機能が充実したものへの進化。（TV画面で対話ができる等）</p> | | | |
| 担当課 | <p>1・2・3・6について 情報通信技術を活用した見守り等在宅生活支援サービスの先進事例を参考に、民間事業者への事業委託も含め検討して参りたいと思います。</p> <p>4・5について 民生委員やケアマネジャーなど関係機関と連携を図り、利用者の活用等状況を把握するとともに、受託事業者である社会福祉協議会とともに、在宅で安心して暮らせる環境づくりを推進していきます。</p> | | | |
| | 意見・提言等に対する担当課の回答 | | | |

【様式】

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

| 評価年度 | 令和6年度 | 事務事業名 | 北秋田市文化スポーツ合宿等誘致促進事業 | | |
|---------|------------------|--|---------------------|-----|--|
| 評価結果 | 目的妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 | |
| | 適切 | 見直し余地あり | 適切 | 適切 | |
| 行政評価委員会 | 意見・提言等の内容 | <p>1. 補助金の増額はあってもよいのではないか。</p> <p>2. この事業を推進したいのか、はっきり分からないことがあったので、幅広い団体を受け入れるための施設整備をお願いしたい。</p> <p>3. 中嶋聡球場や、相撲場や新体育館、スポーツセンター（田沢湖高原、由利本荘矢島のような）など宿泊できる多目的スポーツ施設を提案したい。</p> <p>4. 他市町村との差別化を図る意味でも、大胆な改革を期待している。</p> <p>5. 長いビジョンで、是非他事業と連携して実現させてほしい。</p> | | | |
| 担当課 | 意見・提言等に対する担当課の回答 | <p>1. 補助金の増額について 当事業が地域経済に与える波及効果等を検証しながら増額や上限額の引上げについて検討してまいります。また、大館能代空港の利用など、市が推進する事業を後押しするような補助の増額も合わせて検討してまいります。</p> <p>2. 及び3. の施設整備について 市内体育施設は、いずれも老朽化が進んでおり更新が必要であるが、更新にあたっては、今後の施設のあり方等の方向性が重要となることから、令和7年度のスポーツ推進計画作成の際や市民意識調査などで、広く意見を聴取しながら方向性を示してまいります。</p> <p>「4. 他市町村との差別化」及び「5. 他事業との連携」について 全国的にも多くの自治体を実施している事業であり、差別化は非常に難しい課題であるが、まずは受入れできる体制や環境整備に重点を置き、関連する部署や団体と連携しながら取組んでまいります。</p> | | | |

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

| 評価年度 | 令和6年度 | 事務事業名 | 北秋田市猟友会補助金 | |
|-------------------------|---|-------|------------|-----|
| 評価結果 | 目的妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| | 適切 | 適切 | 適切 | 適切 |
| 行政評価委員会 意見・提言等の内容 | <p>1. 運営費の使途として問題なし。</p> <p>2. 事業費であるとしながら、有害駆除に関することに支出されていないことに疑問を感じる。</p> <p>3. 射撃訓練によって技術が保管されている。</p> <p>4. 餌代や銃弾費用等物価高騰による費用負担が増えているため、費用についての検討も必要ではないか。</p> <p>5. 駆除するだけではなく、ジビエとして資源利用する方向性を求める。</p> | | | |
| 担当課 意見・提言等に対する担当課の回答 | <p>昨今頻発している市街地への熊など有害鳥獣出没による農産物の被害防止や市民の安全を守るため、本市として別事業も含め猟友会などと協働し対策を講じております。</p> <p>当補助金は、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化を図るために猟友会が行う事業に対して交付するものであり、引き続き動向を見ながら適正な執行となるよう努めて参ります。</p> <p>また、ジビエとしての資源利用についても、関連部署と情報共有し活用方法について検討を進めて参ります。</p> | | | |

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

| 評価年度 | 令和6年度 | 事務事業名 | きたあきた赤ちゃん応援事業 | |
|---------|------------------|--|---------------|-----|
| 評価結果 | 目的妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| | 適切 | 適切 | 適切 | 適切 |
| 行政評価委員会 | 意見・提言等の内容 | <p>1. 相談支援と経済的支援が一体的にできている。</p> <p>2. 母子手帳発行時と生後一か月の面談で、家庭の状況が把握できている。</p> <p>3. 相談しやすい環境ができている。</p> <p>4. ハッピーアニバーサリー事業（北秋田市独自）との連携も既に行っているため、既に連携できている。</p> <p>5. 北秋田市公式LINEがとてもよい。</p> <p>6. 事業の継続をしてもらいたい。</p> <p>7. 地元医療機関でも、安心して出産・分娩できる体制を構築していただきたい。</p> | | |
| 担当課 | 意見・提言等に対する担当課の回答 | <p>妊娠時から出産・子育てまですべての妊産婦に寄り添い、安心して出産・子育てができるよう、引き続き、伴走型の相談支援と経済的支援を一体的に実施してまいります。なお、子ども・子育て支援法等において本事業が制度化されることに伴い、令和7年度から「妊婦のための支援給付事業」と名称を変更し、実施してまいります。</p> <p>7については、令和7年1月から市の独自事業として「きたあきた出産まるっと応援事業」を実施しており、通院や宿泊等に係る経済的支援のほか、緊急時の搬送体制の確保を行い、安心して出産していただけるよう支援してまいります。</p> | | |

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

| 評価年度 | 令和6年度 | 事務事業名 | 北秋田市資格取得支援事業 | |
|---------|--|-------|--------------|-----|
| 評価結果 | 目的妥当性 | 有効性 | 効率性 | 公平性 |
| | 適切 | 適切 | 適切 | 適切 |
| 行政評価委員会 | 意見・提言等の内容 | | | |
| 担当課 | 意見・提言等に対する担当課の回答 | | | |
| | <p>1. 対象者の年齢が65歳未満になっているが、現役で仕事をしている高齢者も増えているので年齢制限を上げるのはどうか。（元気な60代70代の労働人口が増えることで、人手不足、労働人口減少の解消につながるのではないか。）</p> <p>2. 上限金額10万円の中で複数の資格を取得できるのが良いと思う。</p> <p>3. 市内企業に内定が決まった高校生なども対象にしてはどうか。</p> <p>4. 世代別の制度利用状況も知れたら良かった。</p> | | | |
| | <p>1・3につきましては、令和7年度要綱改正に向け進めてまいります。 当市資格取得支援事業は幅広い資格等を対象にしており、定住促進及び安定した就労支援に有効な事業であると認識しております。今後も社会情勢やニーズに応じて制度内容の検討、改善を図ってまいります。</p> | | | |